

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年6月)
～生産活動は堅調であり、稼働率も上昇～

発表日：2006年8月11日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
06	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5
	4-6月	1.0	1.5	0.4	10.6	2.4	1.9	0.3	0.7	1.6	6.0	0.1	1.8
	05	6月	0.5	2.1	2.6	▲5.9	1.9	1.6	0.1	0.0	0.5	6.3	▲0.1
05	7月	▲1.4	▲1.3	0.8	▲3.0	▲3.4	▲3.6	0.0	0.1	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲1.7	▲0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7
06	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
	2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5
	4月	2.4	1.0	▲1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5
	5月	▲2.5	1.5	4.2	14.5	▲10.5	0.4	0.1	0.8	0.3	6.1	0.1	1.9
	6月	2.2	2.1	▲0.3	10.4	7.2	3.7	0.0	0.7	0.0	5.6	0.0	2.0

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比+2.2%と2ヵ月ぶりに上昇

6月の稼働率指数は前月比+2.2%と2ヵ月ぶりに上昇した。業種別にみると、15業種中10業種で上昇し、5業種で低下した。

金属製品工業(同▲7.2%)やパルプ・紙・紙加工品工業(同▲0.9%)等、低下した業種も見られたが、前月にこれまで上昇してきた反動で低下した輸送機械工業(前月比+7.2%)は比較的大きく持ち直し、需要が内外ともに旺盛な一般機械工業(同+2.0%)は3ヶ月連続で上昇となった。電気機械工業(同+2.7%)や化学工業(同+2.6%)も上昇しており、6月は生産活動が堅調だったことから多くの業種で稼働率指数は上昇している。

製造工業の生産予測指数を見ると、7月は前月比+2.2%、8月は同+3.7%とプラスが続く計画となっている。今後下方修正される可能性があるものの、電子部品・デバイス工業を中心に生産は引き続き増加基調を辿る見込みであり、稼働率は上昇基調が続くとみられる。稼働率は先行きも高水準で推移し、これは引き続き製造業の設備投資をサポートする要因である。

○ 生産能力指数は前月比横ばい、前年比+0.7%

6月の生産能力指数は前月比+0.0%となった。非鉄金属工業が前月比+0.3%窯業・土石製品工業が同+0.2%と上昇したものの、情報通信工業が同▲0.6%、繊維工業が同▲0.3%と低下したことから、全体では横ばいとなった。ただし、前月比では上昇が一服したが、前年比では+0.7%と上昇傾向が続いており、生産能力は緩やかなペースで拡大しているとの判断には変わりない。

○ 設備投資計画では「能力増強」投資のウエイトが上昇

日銀短観（6月調査）では、製造業の設備投資計画は06年度も堅調なことに加え、日本政策投資銀行の調査においても前年比21.8%増（前年同時期調査：同+19.8%）と製造業の設備投資は引き続き好調なことが示唆されている。さらには、生産能力の観点から投資目的をみると、日本政策銀行の設備投資計画の調査では「能力増強」投資のウエイトが05年度から一段と上昇している。製造業においては同調査が開始された1986年度以来で最も高いウエイトになった模様であり、先行きの成長期待の改善から生産能力の向上を計画している企業が増えてきていることを表しているものと思われる。各種報道からみても、電気機械や電子部品・デバイス等ではデジタル関連投資の能力増強の計画は多く、一般機械も内外需が好調なことから生産能力を拡充している企業が少なくない。素材業種においても鉄鋼業で高級鋼材の需要増に対応して能力を増強する計画があることや窯業・土石や化学もデジタル関連向け投資などが堅調だ。このようにアンケート調査等から考えれば、生産能力は拡大傾向を辿っていると考えられる。もっとも、生産能力指数から判断する上では、その生産能力は拡大しているものの非常に緩やかなペースとなっている。これは生産能力指数の採用品目が少ないため、能力増強を企業が行っても指数に反映されていない部分がある可能性が指摘できる。特に近年に生産が拡大してきている品目では生産能力に捕捉されていないものが散見される。この観点から考えれば、生産能力の拡大は生産能力指数で確認できる以上に進んでいる可能性もある。

<2005・2006年度 投資動機>

(単位、%)

	全産業		製造業						非製造業	
	2005実績	2006計画	2005実績	2006計画	素材型		加工・組立型		2005実績	2006計画
					2005実績	2006計画	2005実績	2006計画		
能力増強	43.8	44.2	33.6	35.5	28.1	31.6	37.3	38	52.1	52.1
新製品・製品高度化	10.2	9.2	18.1	15.9	6.9	6.8	25.5	23	3.7	3.2
合理化・省力化	9	8.7	12.6	11.9	16.4	14.4	10.1	10.2	6.1	5.9
研究開発	3.8	4.1	7.4	7.4	5.2	4.9	9.2	9.6	0.9	1.1
維持・補修	21.3	23.2	16.8	18.1	27.3	28.1	9.5	9.9	24.9	27.8
その他	11.9	10.6	11.5	11.3	16.1	14.1	8.4	9.3	12.3	10

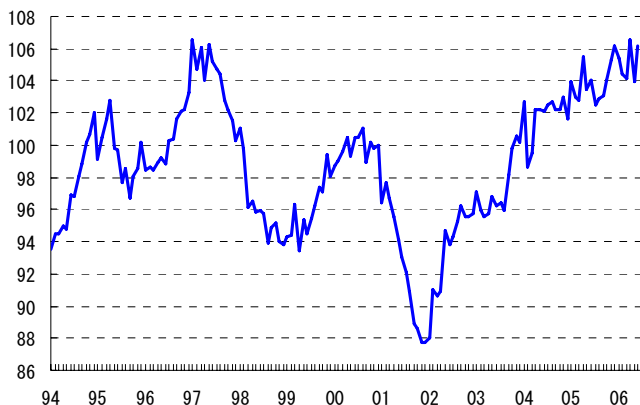
(出所)日本政策投資銀行「設備投資計画調査」

○ 4－6月期の生産は前期比+0.9%と小幅上方修正

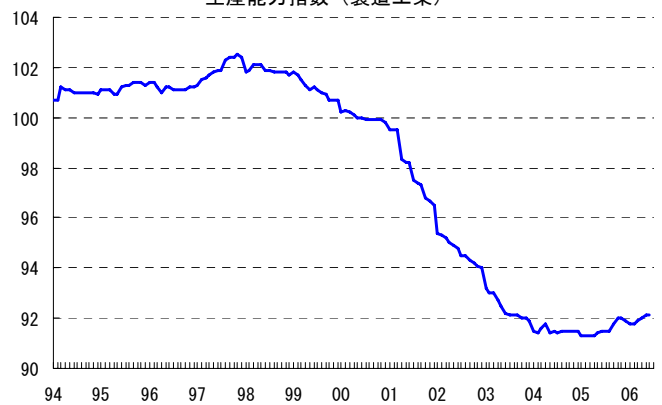
6月の鉱工業生産指数確報は、前月比+2.1%と速報段階から0.2%ポイント上方修正となった。生産の上方修正は鋼船、ショベル系掘削機械等による。この結果、4－6月期の生産は速報段階の前期比+0.8%から同+0.9%と小幅上方修正となった。

なお、出荷指数は同+1.3%（速報同+0.7%）と0.6%ポイント上方修正され、在庫指数は同+0.6%（速報同+0.5%）となった。在庫率は同▲1.1%と速報段階から変わらなかった。

設備稼働率（季調値、指数）



生産能力指数（製造工業）



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。